

第24回 電気システムセキュリティ特別技術委員会
議事録

日 時： 令和元年 6月27日 (木) 15時00分～17時40分

場 所： 電気学会 第2会議室

出席者： 栗原委員長, 徳田委員 (A 部門代表), 吉村委員 (B 部門長), 川上委員 (D 部門長),
前中委員 (E 部門長),
瀬戸委員 (2号委員), 芹澤委員 (2号委員), 奥村委員 (2号委員), 毛塚委員 (2号委員),
大山委員 (横浜国立大学・オブザーバ), 安田 (東京電設サービス (株)・オブザーバ),
藤原 (電気学会・オブザーバ),
桂幹事 (敬称略), 以上13名

配付資料：

- 資料24-0 第24回 電気システムセキュリティ特別技術委員会 議事次第
- 資料24-1 第23回 電気システムセキュリティ特別技術委員会 議事録 (案)
- 資料24-2 電気システムセキュリティ特別技術委員会 委員名簿
- 資料24-3 電気システムセキュリティ特別技術委員会 第1期 成果関連資料
- 資料24-4-1 「防災・減災のための電気エネルギーセキュリティ特別調査専門委員会」設置趣意書 (案)
- 資料24-4-2 「自律走行システムにおける電磁的セキュリティ特別調査専門委員会」経過報告
- 資料24-4-3 「Society 5.0におけるエネルギーセキュリティ特別調査専門委員会」
設立に向けた打ち合わせ議事概要
- 資料24-4-4 「IoT 普及・拡大に向けたシステムセキュリティ特別調査専門委員会」設置趣意書 (案)
- 資料24-5 令和2年 電気学会 全国大会 開催概要

議事概要

1 開会挨拶

栗原委員長より、開会にあたり挨拶があった。また、出席委員の自己紹介を行った。

2 前回議事録の確認

資料24-1に基づき、平成30年10月9日に開催された第23回委員会の議事録 (案) について確認を行い、承認された。

3 第1期の成果の取り纏めとホームページについて

資料24-3に基づいて、第1期の活動について確認を行った。

(栗原委員長) 学会本部作成のホームページについては、より一般の方にも見えやすいような工夫をすることが必要であろう。

次回までにご確認を頂き、気になる点があればお知らせ頂きたい。

- ・スマートグリッドにおける電磁的セキュリティ特別調査専門委員会
技術報告単行本『IoT時代の電磁セキュリティ』発刊
電気学会誌 特集企画
- ・安全・安心社会の電気エネルギーセキュリティ特別調査専門委員会
電気学会誌 特集企画
「技術報告 (に準じるもの)」をホームページで無料公開

・ Cyber Physical Systems Security 特別調査専門委員会
平成 30 年 C 部門大会でのシンポジウム企画

・ スマートグリッドのスマートファシリティ内における EMC 環境特別調査専門委員会
技術報告「スマートグリッドのスマートファシリティ内における EMC 環境」発行

・ 社会インフラ用センサシステムセキュリティ特別調査専門委員会
平成 30 年 電気学会 全国大会 シンポジウム企画
E 部門誌 特集号企画

3-1 「スマートグリッドにおける電磁的セキュリティ特別調査専門委員会」(瀬戸委員)
『IoT時代の電磁セキュリティ』(346 ページ)として、2018 年 4 月に出版されたことが報告された。
電気学会誌 10 月号にも特集企画を行った。

3-2 「安全・安心の電気エネルギーセキュリティ特別調査専門委員会」(桂幹事(餘利野委員代理))
技術報告(に準じるもの)について、無料公開である旨をメールマガジンでアナウンスした。

3-3 「Cyber Physical Systems Security 特別調査専門委員会」(芹澤委員)
平成 30 年 9 月 5 日に行われた C 部門大会での企画セッションにて成果の纏めを行った。

3-4 「スマートグリッドのスマートファシリティ内における EMC 環境」(奥村委員)
技術報告の発刊について報告された。

(奥村委員) 技術報告発行の際には予算が必要であり、第 2 期以降は予算を前もって決めておく必要があるのではないか。

(栗原委員長) 特別技術委員会の予算について、藤原専務理事にご確認頂きたい。

(藤原専務理事) 特別技術委員会の予算については、「特別技術委員会・特別調査専門委員会 運営細目」の第 13 条に記載の通り、企画案を事前に研究調査会議に提出、承認を得ることで経費の執行が可能である。

3-5 「社会インフラ用センサシステムセキュリティ特別調査専門委員会」(毛塚委員)
全国大会のシンポジウム企画にて成果の纏めを行った。E 部門誌の特集号の発行も行った。

4 第 2 期で検討すべきテーマについて

4-1 「防災・減災のための電気エネルギーセキュリティ特別調査専門委員会」(安田, 藤原)
資料 2-4-4-1 に基づき、設置趣意書(案)について説明があり、審議を行った。審議の結果、設置が承認された。

(川上委員) 他の部門も参加しやすいように全国大会シンポジウム等での企画として頂きたい。
回答: そのようにしたい。

(徳田委員) 通信インフラについては、ユーザにとって影響が大きい。そのあたりについてどのように検討をされるのか。先の公開シンポジウムでの報告は実態と異なる印象がある。実際に経験された人などを含めるのが良いのではないかと。

回答: 貴重な意見であり、ぜひ反映したい。

(大山委員) 電力系統技術をどうするのかということについては扱うのか。供給サイドと需要サイドのインタラクションも問題となる。設置準備を行っている Society5.0 の委員会との関連も考えなければならぬ。

回答：電力系統技術も含めて検討したい。

(瀬戸委員) 停電が絶対に起きないようにするのではないということか。

回答：減災も含めて考えている。

(毛塚委員) これまでに行われてきた検討とはどこが違ってくるのか。レジリエンスについて、提案を含めた検討になるのか。

回答：調査を中心にしたいが、セキュリティの実態、改善に何が必要かも含めて検討したい。

(奥村委員) 社会インフラについて、どこまで検討を行うのか。通信も入るのか。

回答：電力を中心に考えており、それに伴う通信障害も含まれる。

(大山委員) デマンドレスポンスが中心になるのか。

回答：大きな災害を対象としており、デマンドレスポンスについては主眼にはならない。

(栗原委員長) 消費者、経験者の視点を含めて調査できるような体制にして頂きたい。タイトルからは自然災害の印象を受ける。

回答：北海道のブラックアウトから時間が経ちすぎないようにできれば早く設置を進めたい。立ち上げてから委員会で扱う問題など整理を進めたい。

(栗原委員長) 出席された委員のご了解を頂けるのであれば、本日の特別技術委員会で設置を承認したい。

4-2 「自律走行システムにおける電磁的セキュリティ特別調査専門委員会」(瀬戸委員)

資料24-4-2に基づき、2019年1月31日に行われた第1回委員会、4月25日に行われた第2回委員会での検討状況について報告があった。

(奥村委員) 自律走行は自動走行ということか。

(瀬戸委員) 自律走行のことを意味している。自動車だけに限定せず、電車、船舶、航空機も含んでいる。

(栗原委員長) 検討が進んでいるということで、引き続きお願いしたい。

4-3 「Society 5.0におけるエネルギーセキュリティ特別調査専門委員会」(大山委員)

資料24-4-3に基づき、設置に向けた検討状況について説明があった。

(栗原委員長) 「防災・減災のための電気エネルギーセキュリティ特別調査専門委員会」は現状の調査、「Society 5.0におけるエネルギーセキュリティ特別調査専門委員会」は未来志向ということで、扱う内容を切り分けられるのか。

(大山委員) 「防災・減災のための電気エネルギーセキュリティ特別調査専門委員会」の設置後、検討状況を見ながら設置検討を進めたい。

(栗原委員長) 2030年以降の未来の話について検討して頂きたい。

4-4 「IoT 普及・拡大に向けたシステムセキュリティ特別調査専門委員会」(芹澤委員)

資料2 4-4-4に基づき、設置趣意書(案)について説明があり、審議を行った。審議の結果、設置が承認された。

(芹澤委員) これまでの2つの特別調査専門委員会から活動を広げるためにも、ぜひC部門以外の方にも委員に加わって頂きたい。

5 全国大会シンポジウムへの対応について(10月17日締切)

栗原委員長より、ぜひ第2期の活動として企画を行いたいとの依頼があった。

6 その他

- ・幹事の増強について川上委員より発議があり審議の結果、承認された。次回委員会までに候補者の選定を行う。
- ・栗原委員長より、第2期の活動では部門横断の取り組みをより進めるため、他部門の方に委員参画の依頼を積極的に行って頂きたいとの依頼があった。

以上